

2026 年 7 月 22 日

夏の車内温度の測定結果について

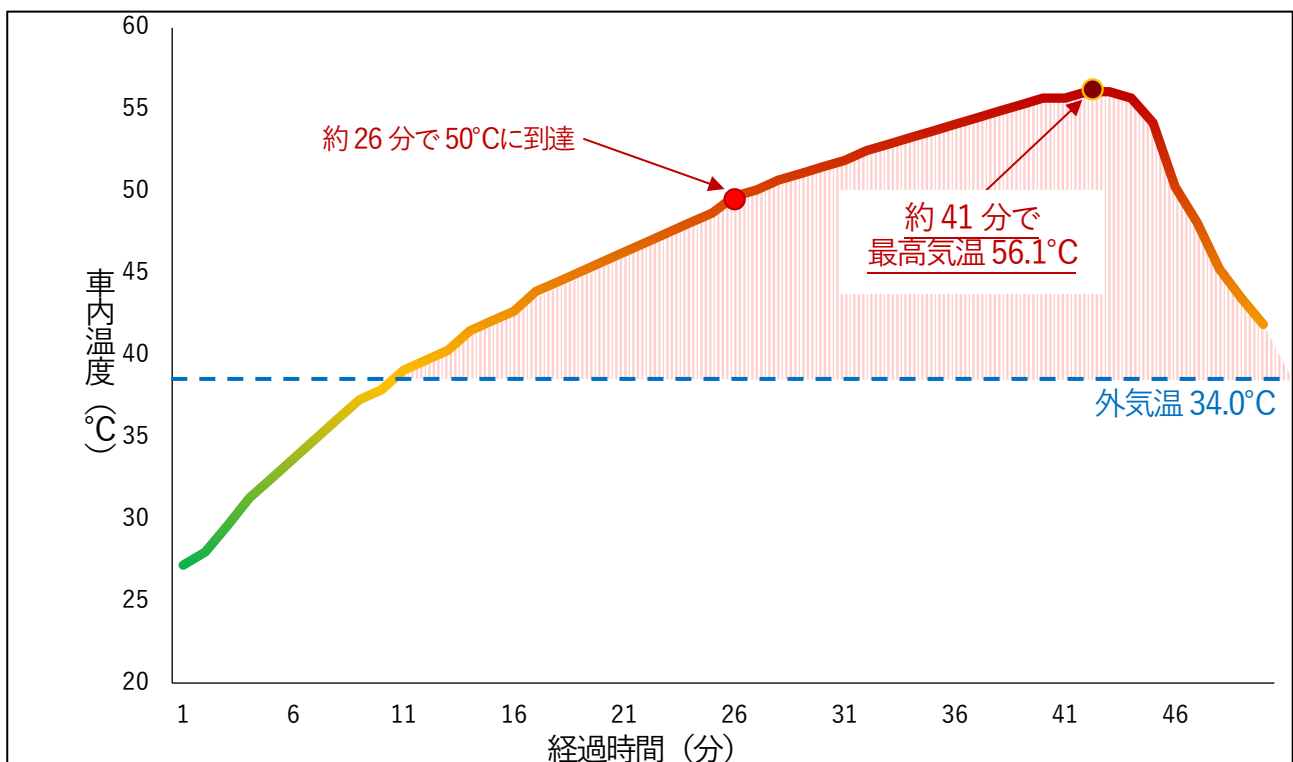
夏の車内温度が上昇することにより、車内に放置したリチウムイオン電池を含む製品や車の閉じ込めによる熱中症などの危険性について広く注意喚起を図るため、以下のとおり車内温度の測定結果をまとめましたのでお知らせします。

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値。

※ 測定条件：7月10日、晴天、外気温 約34℃、エンジン停止（無人・無冷房）。経過時間は日向に駐車した時点（14時00分）を起点とする。

■ 車内気温の推移について

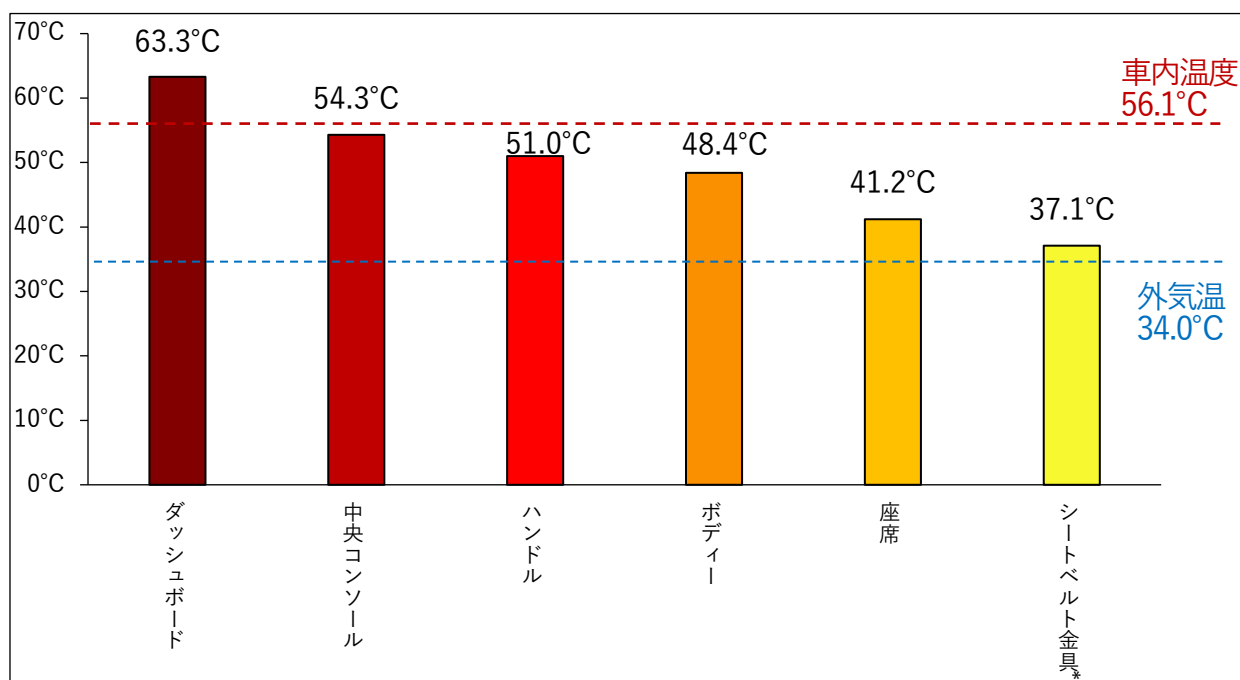
日向に駐車した車内の気温をみると、外気温約34℃に対し、駐車から約26分で50℃を超え、その後も上昇を続けて約41分で最高の56.1℃に達し、外気温を22.1℃を上回りました。短時間のうちに危険な温度になることが分かります。



■ 車両各部の表面温度について

車内温度測定終了直後の車両各部の表面温度をみると、ダッシュボードが最も高く 63.3℃、次いで中央コンソールのカバーが 54.3℃、ハンドルが 51.0℃、ボディーが 48.4℃、座席が 41.2℃と続きます。直射日光が当たる面ほど高温になる傾向が見られます。

なお、シートベルトの金具は 37.1℃と比較的低めですが、これは測定中この部分が終始日陰にあったためであり、直射日光が当たる場所ではさらに高温になると考えられます。



*シートベルト金具については車内の日影にあった状態のもの。

■ 車内への閉じ込めの危険性について

56.1℃という車内気温は、人が短時間で熱中症に陥る極めて危険な環境です。特に子どもは体温調節機能が未発達で、大人よりも早く体温が上昇するため、「少しの間」であっても車内に残すことは大変危険です。

- ・短時間の買い物などであっても、子どもや高齢者、ペットを車内に残さないようにしましょう。
- ・エンジンやエアコンを切った車内は、窓を少し開けていても急激に温度が上昇します。
- ・車から離れる際は、後部座席まで必ず確認する習慣をつけましょう。

■ リチウムイオン電池の火災予防について

スマートフォンやモバイルバッテリー、ハンディーファンなどに使われているリチウムイオン電池は、高温にさらされると内部で異常な発熱（熱暴走）を起こし、発火・破裂に至るおそれがあります。特にダッシュボードは 63.3℃にまで達し、電池の異常・劣化を引き起こしやすい環境です。

- ・モバイルバッテリーやスマートフォンなどを、車内、特にダッシュボード上に置いたままにしないようにしましょう。
- ・直射日光の当たる場所での充電・保管は避けましょう。

- ・膨張・変形・異臭・発熱などの異常がある電池は使用をやめ、各自治体のルールに従って処分しましょう。